

27E-pm02

初年次教育における実習の不満足度と学業成績との関連—学生カルテによる「学びのコミュニティ」構築の一環として—

○武田 直仁¹, 田口 忠緒¹, 飯田 耕太郎¹, 植田 康次¹, 川村 智子¹, 谷野 秀雄¹ (¹名城大薬)

(目的) 初年次薬学入門実習における態度・行動様式は潜在的な要指導学生を検出する手がかりのひとつと考え、事後アンケートによる意識調査から成績不振学生の早期支援システムを構築する。

(方法) 物理、生物、分析、化学系の4回の入門実験後、実験内容の理解度や学生の意識に関するアンケート(約20質問)を5件法で実施し、否定的評価(1,2)をつけた不満群とすべての質問に評価1,2を含まない非不満群間で、一年前期履修科目の学業成績に差異があるのかを調べた。

(結果・考察) 全履修者数291名中、4質問以上(最高度数13)に「不満」と回答した学生は28名であった。このうち9名が下位4分の1の成績であった。実習に不満を持った度数が4以上の不満群と度数0の非不満群における一年次前期履修科目の成績に差異があるかをフィッシャーの直接確率で検定した。その結果、入門実習で不満を持った度数の多い学生は一年前期学年順位で有意に下位1/4に属することがわかった($p=0.016$)。また、不満群と非不満群における成績上位1/4と下位1/4の人数を調べた。成績上位1/4における下位1/4の人数の比率は有意に実習不満群の方が大きかった($p=0.007$)。これらの結果は薬学入門実習に不満を持つ学生は不満を持たない学生に比較して学業成績が下位に位置する傾向があることを示している。

不満足度数が6以上の学生10名について4実験の感想・意見の自由記述内容を精査したが、7名が何らかの不満を述べており(1名は休学)、他の学生より満足度が低い傾向が窺えた。学生カルテは本学が推進する「学びのコミュニティ」のひとつとして個々の学生行動を可視化するプログラムであり、学生カルテに記された要注意学生は実習態度が不適切な学生や挙動不審な学生と一部一致した。